

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 5月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204201		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 桐壺の家		
所在地	広島県広島市西区己斐中二丁目12-21 (電話) 082-271-8885		
自己評価作成日	平成31年3月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204201-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年4月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設内は明るく清潔で落ち着いた雰囲気を大切にしています。食事管理も栄養士の指導のもと提供しています。栄養や味だけでなく見た目の良い盛り付けをし、手作りの料理で食事を楽しんで頂けるよう配慮しています。食事前の嚥下体操やレクリエーションや季節のイベント等も積極的に行っている他、地域交流を深めるため運営推進会議をしっかりと行い、地域行事や集会にも入居者様といつも参加させて頂いています。医師による往診や看護師もおり、緊急時にはすぐに対応できる等、入居者様に安心した生活を送って頂ける体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の特徴的な取組みとして、第一に「職員を育てる取組み」「急変や事故発生時の備え」の深化がある。即ち、職員の実践的介護力の質的向上のため毎月研修を実施し人材育成の強化を図っている。特に利用者の重度化に伴い「急変や事故発生」等のリスク管理が喫緊の課題であり、そのため医療法人グループとしての専門性を活かした緊急時対応が全職員可能となる様、医療・介護の連携を踏まえた実践的研修を実施・強化している。又、管理者は最新の実践的な知見等を研修の質的向上に繋げるべく毎年広島脳卒中市民シンポジウムにも参加している。第二に「事業所と地域とのつきあい」「役割、楽しみごとの支援」の深化がある。即ち、職員の充足に伴い、懸案であったレクリエーションの充実に向けて担当者・職員が取り組み、5月の大正琴演奏に繋げることが出来た。

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を、事業所の理念としている。その理念を毎朝の申し送りで読んで、職員全員で意識を高めている。	法人理念を事業所理念とし、それを事業所内に掲示し実践上の立ち返るべき原点として位置付けると共に毎日の申し送りで唱和して理念の徹底を図っている。理念の下に「無理のない、良い介護」を目指し、管理者が職員にその都度声掛けをしてケアの実践力向上に取り組んでいる。	研修については年間計画を立案しているが、理念を具体化する他の項目については不明確である。従って、分かり易い具体的な年間行動計画を策定し、定期的に達成度を評価して記録に残す案等、評価の検証過程を「可視化」することで職員間の認識を共有化し、理念の深化・定着を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催の際には挨拶をして、顔馴染みの関係作りに努めている。町内会にも加入して、交流を深めるためご近所の方や民生委員の方に教えて頂く等協力して頂いている。出来るだけ地域行事に入居者と参加し、交流を図っている。	日頃から散歩等で地域住民と挨拶を交わしたり、町内会にも加入し、とんど祭り・餅つき交流会等の地域行事に利用者と参加したり、歌の集い・ピアノ演奏等のボランティアの受け入れ等、相互交流も行っている。又、「ひとり暮らしの高齢者と小学生との交流会」等の世代間交流にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂けるよう努めている。運営推進会議で話をする等しており、ご近所の方より要望、苦情にはすぐに取りかかっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に開催して、地域の方、民生委員、地域包括支援センター職員等に出席して頂いている。ホーム内の報告、地域の方より情報を頂き地域イベントに参加している。また、報告や情報のみでなく、ご家族や参加者より意見を頂き、具体的に活かす事で改善への取組みを行っている。	会議は利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し定期的に開催されている。不参加家族に対しては議事録を送付し運営状況の共有を図っている。その意見交換の中からおむつの当て方の改善や「ひとり暮らしの高齢者と小学生との交流会」への参加等に繋がった経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営やサービス内容、苦情、相談等を積極的に伝え、疑問に思う事を問い合わせたりすることで協力関係を築いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加し情報共有が図られ、会議開催報告書は市担当課に持参している。日頃の相談・助言の他、行政主催の虐待防止等の研修や行政後援の広島脳卒中市民シンポジウム等に参加したり、生活保護の利用者に関しても生活課職員の定期的訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修や勉強会を行い、利用者が受ける身体的・精神的苦痛について職員全員が正しく理解できるように取り組んでいる。また、外出したい時には行動を抑制するのではなく、職員が付き添い安全面にも配慮している。セコムを導入することにより、目の届かない場所も察知でき、鍵をかけない暮らしを支援している。	内・外部研修等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉感知機器による見守り等で対応している。又、今回の制度改正に伴い、3か月毎に身体拘束適正化委員会を開いて事例検討等を行い、拘束例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修には積極的に参加し、職員全員が理解浸透出来るように勉強会やミーティングを行っている。早期発見、防止を徹底し、管理者は、職員の疲労やストレスがサービスに影響しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要な入居者がいる場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、入居者やご家族へ制度についての情報提供を行う事で支援に結び付けている。外部研修を利用し、参加する事で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には何度でも見学に来て頂く事が出来、実際の様子を見て頂くことで安心して入居できる体制を作っている。契約については、料金面、重度化、看取り、リスク等、丁寧に説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様に対して定期的に運営推進会議議事録等を送り、状態や運営状況等をお知らせしている。また面会時に様子を報告して、コミュニケーションを図っている。その際には何でも話せるような雰囲気作りに配慮している。意見や要望については、申し送りノートに「意見・要望」の欄を設け、職員が把握と対応出来るようになっている。相談窓口も設置しており、いつでも対応できる体制を作っている。定期的に開催される運営推進会議への参加を、御家族様に働きかけている。	家族とは面会時・介護計画見直し時・運営推進会議・アンケート調査等で管理者や職員が把握する様に努めており申し送りノート等に残し職員間で共有している。家族からの要望により口腔ケアや排泄ケアの介護力改善に向けた研修会の実施や洗濯物の取り違え防止のため複数確認に繋がった例がある。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、コミュニケーションを図り、意見や気付きを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。場合によっては、個別に話をするなどしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設け、管理者を通じて代表者へ随時報告をし、運営に関する事項について決定がなされている。	毎日の申し送りや毎月の職員会議等で意見交換をして運営に反映させている。又、管理者は日頃から職員と話す機会を設け介護方法・業務上の提案等に対する支援をしている。職員からの提案により利用者の状況が把握しやすい居室への移動や転倒防止のためベッドからマット対応に変えた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩時間、場所を設けている。また、職員同士の人間関係も把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修に職員が受講できるようにしている。研修終了後は、報告書を全ての職員が閲覧している。新人の職員が入社した際には、先輩職員が付き指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会や外部研修へ参加した際等には、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り質の向上とケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学時や入居時に、ご本人・ご家族より話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合っている。希望があれば入居前にお会いしに出向き、お話を伺うようにしている。情報も確認し、職員全員で把握するようにしている。職員も、受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族と話し、家族が求めている事や不安に思っていること、これまでの経緯を受け止め、関係が築けるようしている。ご家族の面会の際には、近況を伝えたり、ご家族からの意見も伺いながら、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスにならず、人生の先輩であるという思いを職員が共有している。支援する側・される側という意識を持たず協働しながら生活が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子や状態を面会時や場合によっては電話でこまめに報告するとともに、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで支援しているという事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活の延長線上であるよう、手紙や電話等で関係が継続出来るよう支援している。友人が訪問される方もいる。家族の協力が有り、外食等行きたい場所にも出かける方もいる。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、地域行事等で知人と挨拶を交わしたり、家族の協力も含め美容院や墓参り等の外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。馴染みの主治医への受診や信仰の仲間の面会の例もある。	

自己評価	外部評価	項 目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性について申し送り等を使って情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談窓口を設け、利用が終了してからも、その後の支援に応じる姿勢を示している。これまでの生活の継続性が損なわれないように、生活環境や支援内容、注意点等について細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、日々の気付きは申し送りを行っている。思いや意思を日常の言動や表情から汲み取るように心がけている。コミュニケーションを密にし、家族からも情報を得るようにしている。	利用前の情報収集で利用者の習慣や好み等の情報を共有し、その後はその方の気持ちを大事にしながらゆっくり話す時間を作り行動を理解する様努め、それを申し送りノート等で共有している。家族の依頼で利用者が好きな神楽見物に同行したり、糖分制限下でも嗜好に配慮した飲み物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが継続出来るように支援している。聞き取りや、前利用の病院や施設から情報を集め、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行っている。職員全員でモニタリング、カンファレンスを行い、状況に応じて見直しをしている。本人、ご家族の思いが反映されるものとなるよう努めている。</p>	<p>アセスメント・家族の意向を踏まえ計画作成担当者が原案を作成して、家族の面会時に計画を説明・同意を得て本案としている。職員全員でモニタリングや計画の見直しを基本3か月毎に行う。徘徊・異食等、周辺症状の著明な利用者に対し、周辺の物品整理等、認知症の3次予防対策を立案中である。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送り等で入居者の変化を確認し、その都度記録している。申し送りノートには、重要事項を全て記載し、職員間で共有しながらケアに当たっている。定期的にカンファレンス会議を行い、介護計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の要望に向き合い、柔軟に対応している。その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来る等の対応をしている。また、ご家族が宿泊されたり、食事の提供も行っており、ご家族と外泊、外出される方もいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、各機関と意見交換出来るようしている。運営推進会議を利用し、協力を得たり、町内のお店や美容院を利用するなどして関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>これまでのかかりつけや、希望に応じた医療機関へ受診している。また、医師の往診、24時間受け入れ可能な協力病院（舟入病院）各医療機関関係者の確保（外科、内科、皮膚科、歯科など）により、適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて、職員が付き添い状態の説明も行っている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医への受診や系列診療所からの往診の他、専門医の受診は主に事業所の協力による。看護師の常駐や系列施設の看護師の支援により利用者の健康状態を把握し、又随時の協力歯科医による支援もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約により、日常の健康面や医療面について対応、相談、助言を行ってもらっている。職員と看護師が情報を共有し対応できる体制を取り、薬や医療面についての情報提供等を行ってもらう等、協働体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人へのに関する情報を医療機関へ提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関の相談員とその時の状況を聞き、話し合いながらスムーズな退院につながるよう、支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、家族、医師、職員等関わるチーム全体で話し合いを行っている。事業所での対応が可能な事、困難な事、不安な事などを連携病院や協力病院と情報交換しながら、最期までその人らしくあるよう支援している。本人や家族の意向を踏まえ、主治医と相談しながら体制を取っている。	要望があれば看取りを行なう方針である。入居時、「看取りについての事前確認書」にて基本的な方針を説明し、重度化した際には家族等、関係者で話し合いを行い、書面による同意の下、指針に基づき適切な支援を行う考えである。協力医・マニュアル等も整備され、一昨年は1例の経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr、原田Dr、看護師の指示のもと、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に対応できる技術を身につけるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方を指導して頂き、設備の点検も定期的に行っている。防災大会にも参加しており、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きた時の協力を得ている。	消防署の立会いの下、夜間想定や利用者も参加し定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議で民生委員を通じて地域に災害時の一般的な協力要請を行うと共に避難場所の情報提供も受けている。又、市の自衛消防隊消防競技大会にも参加して事業所の消防実践力を強化している。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助の際の言葉掛けは丁寧に、本人の気持ちを考え、さりげないケアを心掛けている。自尊心を傷つけることなく配慮した対応を職員全員で徹底している。プライバシーに関しては勉強会を行い、個人情報外部に漏れることがないように注意を払っている。	尊厳に配慮したケアを心掛け、利用者に対する言葉かけも管理者は「言葉による行動制限」等「不適切な」ケアに注意を促したり、職員相互で注意し合える関係性もある。その都度口頭や申し送りノートで即応している。又、個人情報に関してもLINE等での拡散に口頭で注意喚起を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々に合わせた説明を行いながら希望や願いを引き出せるような支援を行っている。自己決定しやすい声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日、その時の体調や気持ちを汲み取るよう支援している。基本的な流れはあるが、出来るだけ個性のあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性、好みに合わせた身だしなみが出来るよう心掛けている。季節感や清潔感にも配慮し支援している。定期的に行う理美容では、カットやカラーなど、希望に合わせて出来るよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関するアンケートを行い、好みや苦手な物を把握するとともに献立に活用している。管理栄養士を中心に栄養バランスを計画、手作りを徹底し、食事が楽しみな物となるよう工夫している。食後の後片付けや準備などもやりがいを持ってされている方もいる。	母体法人の管理栄養士の献立を基に業者から届けられた食材を事業所で近隣施設分も含め調整・調理する。年に一度嗜好調査を行い献立に反映させている。おしるこレク等の特別メニューや家族との外食も好評である。利用者クリスマスケーキの飾り付けや食卓拭き等を手伝ってもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項 目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調と摂取量を把握し、個々に合わせ主食をお粥にしたり、副食を刻んだり、管理栄養士を中心に、献立の栄養バランスにも配慮している。食事以外の水分補給を行い、水分摂取が出来るようしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後のうがいと歯磨き、義歯洗浄の口腔の清潔保持は日常的に行っている。利用者によっては、ガーゼやスポンジを使って口腔ケアを行い、肺炎防止にも努めている。食事前には口腔体操を行い、治療が必要であれば歯科受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を利用し、排泄パターンを把握し、身体状況に応じて出来るところは見守り、自尊心に配慮してさりげなくカバーが出来るように支援している。また、言動などからも排泄のサインを読み取り、誘導できるよう心掛けている。</p>	<p>排泄記録表等により各人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。状況により夜間はポータブルトイレ対応や日中は布・紙パンツ又、状態によりオムツの使用等、柔軟な対応をしている。入居時は紙おむつだったが、立ち上がり可能でトイレ誘導となり、夜は紙パンツとなった事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状況を見直し、家族とも相談しながら、自然排便を促すよう働きかけている。必要であれば、無理のない下剤や浣腸等の検討もしている。散歩や、体操、水分補給で改善を図っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員のペースに合わせず、利用者の希望に沿った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックを行い、安全に楽しみな時間となるように健康面での配慮にも気を配っている。不安等を感じさせない見守りや介助を心掛けている。</p>	<p>週2回の午前浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの曜日や時間帯等、柔軟に対応している。入浴は一人用又は二～三人用家庭浴槽が設置され、浴槽に移乗し易い入浴台や浴槽台等の環境整備もある。浴室にBGMを流したり、入浴前日に着換えの服を選んでもらう等の工夫もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	自然な生活リズムが整えられるよ う、日中活動の促しを通じて支 援している。ゆっくりと休息や睡 眠が取れるよう配慮し、眠剤を 服用される場合には、睡眠状態 、ご家族等の希望を聞き、主治 医に相談のもと調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	理事長、主治医、看護師による 薬についての勉強会を行い、副 作用、用法、用量について理解 に努めている。職員は、個々の 内服薬を把握できるように一 覧をファイルにて管理している。 服薬時には、確実に手渡しをし 、きちんと服薬されているかの 確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を 最大限に活かして自分らしく暮 らせるように一人ひとりの生活 歴を把握し、経験や知恵を登 場できる場面を作っている。入 居者様の得意な事を活かしたレ ク。ボランティア活動や散歩、 季節の行事、買い物等で楽し める時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	外出が困難と決めつけず、重度 の方でも外出が出来るように介 護タクシーを利用する等、家族 の協力も頂きながら希望に沿 った支援を行っている。個別 の外出についても、ご家族と 相談、協力を頂き、実現でき るよう支援している。	日頃から希望により少人数で近 所への散歩やとんど祭り・餅 つき交流会等の地域行事に参 加している。又、季節行事とし て近隣公園での花見等に出 かけたり、個別外出支援とし て利用者・家族希望の神楽見 物と買い物に同行したり、定 期的に銀行に同行して金銭管 理を支援することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	所持金は居室内での紛失や入 居者同士のトラブル防止のた め、原則として事務所の金庫 に入れておく。買い物をした い時には、職員と出かけて支 払い等を行っている。その中 での範囲での買い物、支払い をしている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞いや年賀状を出すなど、プライバシーに配慮しながら希望に応じて生活の中で電話をしたり、手紙を書く支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節に合った花や飾りを取り入れ、入り易い雰囲気になっている。外の景色も見え、季節感を感じる事も出来る。キッチンが利用者に安全に使用できるものとなっており、トイレは車椅子でも出入りが出来るようになっている。照明も落ち着いた色のある色にし、空調にも気を配っている。	天井は高く、中央にグランドピアノ、白を基調とした洋風の設えでエレベーターではない階段仕様のバリア「アリー」は利用者の生活リハビリに資する構造でもある。花見や七夕等の飾り付けや利用者で作った作品で季節を感じ、トイレに可動式手すりや階段にスロープを活用する等の工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、フロアで他の利用者と自由に過ごせる空間を設け、フロアではソファや椅子を置き、くつろいで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いて過ごせるように新しい物をそろえるのではなく、今まで使われていた馴染みのある物を持ち込んで頂くように説明をしている。心地よく過ごせる空間づくりを行っている。これまでの生活が、環境が変わっても継続出来るよう支援している。	居室も洋風の設えであり、ベッド・エアコン・クローゼットが設置され、他は仏壇等の使い慣れた物や愛読書・家族との写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫がなされている。利用者によってはベッドに替えてマットと布団対応としたり、ポータブルトイレを設置することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺や階段に滑り止めを設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置にも配慮している。状態が変わり混乱が生じた時には、話し合いを行い、不安を取り除くようしている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>法人の理念を、事業所の理念としている。その理念を毎朝の申し送りで読んで、職員全員で意識を高めている。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>運営推進会議の開催の際には挨拶をして、顔馴染みの関係作りに努めている。町内会にも加入して、交流を深めるためご近所の方や民生委員の方に教えて頂く等協力して頂いている。出来るだけ地域行事に入居者と参加し、交流を図っている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂けるよう努めている。運営推進会議で話をする等しており、ご近所の方より要望、苦情にはすぐに取りかかっている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>定期的を開催して、地域の方、民生委員、地域包括支援センター職員等に出席して頂いている。ホーム内の報告、地域の方より情報を頂き地域イベントに参加している。また、報告や情報のみでなく、ご家族や参加者より意見を頂き、具体的に活かす事で改善への取組みを行っている。</p>		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>運営やサービス内容、苦情、相談等を積極的に伝え、疑問に思う事を問い合わせたりすることで協力関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修や勉強会を行い、利用者が受ける身体的・精神的苦痛について職員全員が正しく理解できるように取り組んでいる。また、外出したい時には行動を抑制するのではなく、職員が付き添い安全面にも配慮している。セコムを導入することにより、目の届かない場所も察知でき、鍵をかけない暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修には積極的に参加し、職員全員が理解浸透出来るように勉強会やミーティングを行っている。早期発見、防止を徹底し、管理者は、職員の疲労やストレスがサービスに影響しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要な入居者がいる場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、入居者やご家族へ制度についての情報提供を行う事で支援に結び付けている。外部研修を利用し、参加する事で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には何度でも見学に来て頂く事が出来、実際の様子を見て頂くことで安心して入居できる体制を作っている。契約については、料金面、重度化、看取り、リスク等、丁寧に説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様に対して定期的に運営推進会議議事録等を送り、状態や運営状況等をお知らせしている。また面会時に様子を報告して、コミュニケーションを図っている。その際には何でも話せるような雰囲気作りに配慮している。意見や要望については、申し送りノートに「意見・要望」の欄を設け、職員が把握と対応出来るようにしている。相談窓口も設置しており、いつでも対応できる体制を作っている。定期的に開催される運営推進会議への参加を、御家族様に働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、コミュニケーションを図り、意見や気付きを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。場合によっては、個別に話をするなどしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設け、管理者を通じて代表者へ随時報告をし、運営に関する事項について決定がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩時間、場所を設けている。また、職員同士の人間関係も把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修に職員が受講できるようにしている。研修終了後は、報告書を全ての職員が閲覧している。新人の職員が入社した際には、先輩職員が付き指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会や外部研修へ参加した際等には、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り質の向上とケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学時や入居時に、ご本人・ご家族より話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合っている。希望があれば入居前にお会いしに出向き、お話を伺うようにしている。情報も確認し、職員全員で把握するようにしている。職員も、受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族と話し、家族が求めている事や不安に思っていること、これまでの経緯を受け止め、関係が築けるようしている。ご家族の面会の際には、近況を伝えたり、ご家族からの意見も伺いながら、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスにならず、人生の先輩であるという思いを職員が共有している。支援する側・される側という意識を持たず協働しながら生活が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子や状態を面会時や場合によっては電話でこまめに報告するとともに、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで支援しているという事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活の延長線上であるよう、手紙や電話等で関係が継続出来るよう支援している。友人が訪問される方もいる。家族の協力があり、外食等行きたい場所にも出かける方もいる。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性について申し送り等を使って情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談窓口を設け、利用が終了してからも、その後の支援に応じる姿勢を示している。これまでの生活の継続性が損なわれないように、生活環境や支援内容、注意点等について細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、日々の気付きは申し送りを行っている。思いや意思を日常の言動や表情から汲み取るように心がけている。コミュニケーションを密にし、家族からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが継続出来るように支援している。聞き取りや、前利用の病院や施設から情報を集め、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行っている。職員全員でモニタリング、カンファレンスを行い、状況に応じて見直しをしている。本人、ご家族の思いが反映されるものとなるよう努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送り等で入居者の変化を確認し、その都度記録している。申し送りノートには、重要事項を全て記載し、職員間で共有しながらケアに当たっている。定期的カンファレンス会議を行い、介護計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の要望に向き合い、柔軟に対応している。その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来る等の対応をしている。また、ご家族が宿泊されたり、食事の提供も行っており、ご家族と外泊、外出される方もいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、各機関と意見交換出来るようしている。運営推進会議を利用し、協力を得たり、町内のお店や美容院を利用するなどして関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>これまでのかかりつけや、希望に応じた医療機関へ受診している。また、医師の往診、24時間受け入れ可能な協力病院（舟入病院）各医療機関関係者の確保（外科、内科、皮膚科、歯科など）により、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、職員が付き添い状態の説明も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約により、日常の健康面や医療面について対応、相談、助言を行ってもらっている。職員と看護師が情報を共有し対応できる体制を取り、薬や医療面についての情報提供等を行ってもらう等、協働体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への関する情報を医療機関へ提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関の相談員とその時の状況を聞き、話し合いながらスムーズな退院につながるよう、支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、家族、医師、職員等関わるチーム全体で話し合いを行っている。事業所で対応が可能な事、困難な事、不安な事などを連携病院や協力病院と情報交換しながら、最期までその人らしくあるよう支援している。本人や家族の意向を踏まえ、主治医と相談しながら体制を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr、原田Dr、看護師の指示のもと、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に対応できる技術を身につけるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方を指導して頂き、設備の点検も定期的に行っている。防災大会にも参加しており、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きた時の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助の際の言葉掛けは丁寧に、本人の気持ちを考え、さりげないケアを心掛けている。自尊心を傷つけることなく配慮した対応を職員全員で徹底している。プライバシーに関しては勉強会を行い、個人情報外部に漏れることがないように注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々に合わせた説明を行いながら希望や願いを引き出せるような支援を行っている。自己決定しやすい声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日、その時の体調や気持ちを汲み取るよう支援している。基本的な流れはあるが、出来るだけ個別性のあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性、好みに合わせた身だしなみが出来るよう心掛けている。季節感や清潔感にも配慮し支援している。定期的に行う理美容では、カットやカラーなど、希望に合わせて出来るよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関するアンケートを行い、好みや苦手な物を把握するとともに献立に活用している。管理栄養士を中心に栄養バランスを計画、手作りを徹底し、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。食後の後片付けや準備などもやりがいを持ってされている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調と摂取量を把握し、個々に合わせ主食をお粥にしたり、副食を刻んだり、管理栄養士を中心に、献立の栄養バランスにも配慮している。食事以外の水分補給を行い、水分摂取が出来るようしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後のうがいと歯磨き、義歯洗浄の口腔の清潔保持は日常的に行っている。利用者によっては、ガーゼやスポンジを使って口腔ケアを行い、肺炎防止にも努めている。食事前には口腔体操を行い、治療が必要であれば歯科受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を利用し、排泄パターンを把握し、身体状況に応じて出来るところは見守り、自尊心に配慮してさりげなくカバーが出来るように支援している。また、言動などからも排泄のサインを読み取り、誘導できるよう心掛けている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状況を見直し、家族とも相談しながら、自然排便を促すよう働きかけている。必要であれば、無理のない下剤や浣腸等の検討もしている。散歩や、体操、水分補給で改善を図っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員のペースに合わせず、利用者の希望に沿った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックを行い、安全に楽しみな時間となるように健康面での配慮にも気を配っている。不安等を感じさせない見守りや介助を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	自然な生活リズムが整えられるよ う、日中活動の促しを通じて支 援している。ゆっくりと休息や睡 眠が取れるよう配慮し、眠剤を 服用される場合には、睡眠状態 、ご家族等の希望を聞き、主治 医に相談のもと調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	理事長、主治医、看護師による 薬についての勉強会を行い、副 作用、用法、用量について理解 に努めている。職員は、個々の 内服薬を把握できるように一 覧をファイルにて管理している。 服薬時には、確実に手渡しをし 、きちんと服薬されているかの 確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を 最大限に活かして自分らしく暮 らせるように一人ひとりの生活 歴を把握し、経験や知恵を登 揮できる場面を作っている。入 居者様の得意な事を活かしたレ ク。ボランティア活動や散歩、 季節の行事、買い物等で楽し める時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	外出が困難と決めつけず、重 度の方でも外出が出来るよう に介護タクシーを利用する等、 家族の協力も頂きながら希望 に沿った支援を行っている。個 別の外出についても、ご家族と 相談、協力を頂き、実現でき るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	所持金は居室内での紛失や入 居者同士のトラブル防止のため 、原則として事務所の金庫に 入れています。買い物をした い時には、職員と出かけて支 払い等を行っております。そ の中での範囲での買い物、支 払いをしています。		

自己評価	外部評価	項 目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞いや年賀状を出すなど、プライバシーに配慮しながら希望に応じて生活の中で電話をしたり、手紙を書く支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節に合った花や飾りを取り入れ、入り易い雰囲気になっている。外の景色も見え、季節感を感じる事も出来る。キッチンが利用者に安全に使用できるものとなっており、トイレは車椅子でも出入りが出来るようになっている。照明も落ち着いた色にしている。空調にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、フロアで他の利用者と自由に過ごせる空間を設け、フロアではソファや椅子を置き、くつろいで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いて過ごせるように新しい物をそろえるのではなく、今まで使われていた馴染みのある物を持ち込んで頂くように説明をしている。心地よく過ごせる空間づくりを行っている。これまでの生活が、環境が変わっても継続出来るよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺や階段に滑り止めを設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置にも配慮している。状態が変わり混乱が生じた時には、話し合いを行い、不安を取り除くようしている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を、事業所の理念としている。その理念を毎朝の申し送りで読んで、職員全員で意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催の際には挨拶をして、顔馴染みの関係作りに努めている。町内会にも加入して、交流を深めるためご近所の方や民生委員の方に教えて頂く等協力して頂いている。出来るだけ地域行事に入居者と参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂けるよう努めている。運営推進会議で話をする等しており、ご近所の方より要望、苦情にはすぐに取りかかっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的開催して、地域の方、民生委員、地域包括支援センター職員等に出席して頂いている。ホーム内の報告、地域の方より情報を頂き地域イベントに参加している。また、報告や情報のみでなく、ご家族や参加者より意見を頂き、具体的に活かす事で改善への取組みを行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営やサービス内容、苦情、相談等を積極的に伝え、疑問に思う事を問い合わせたりすることで協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修や勉強会を行い、利用者が受ける身体的・精神的苦痛について職員全員が正しく理解できるように取り組んでいる。また、外出したい時には行動を抑制するのではなく、職員が付き添い安全面にも配慮している。セコムを導入することにより、目の届かない場所も察知でき、鍵をかけない暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修には積極的に参加し、職員全員が理解浸透出来るように勉強会やミーティングを行っている。早期発見、防止を徹底し、管理者は、職員の疲労やストレスがサービスに影響しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要な入居者がいる場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、入居者やご家族へ制度についての情報提供を行う事で支援に結び付けている。外部研修を利用し、参加する事で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には何度でも見学に来て頂く事が出来、実際の様子を見て頂くことで安心して入居できる体制を作っている。契約については、料金面、重度化、看取り、リスク等、丁寧に説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様に対して定期的に運営推進会議議事録等を送り、状態や運営状況等をお知らせしている。また面会時に様子を報告して、コミュニケーションを図っている。その際には何でも話せるような雰囲気作りに配慮している。意見や要望については、申し送りノートに「意見・要望」の欄を設け、職員が把握と対応出来るようしている。相談窓口も設置しており、いつでも対応できる体制を作っている。定期的に開催される運営推進会議への参加を、御家族様に働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、コミュニケーションを図り、意見や気付きを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。場合によっては、個別に話をするなどしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設け、管理者を通じて代表者へ随時報告をし、運営に関する事項について決定がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩時間、場所を設けている。また、職員同士の人間関係も把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修に職員が受講できるようにしている。研修終了後は、報告書を全ての職員が閲覧している。新人の職員が入社した際には、先輩職員が付き指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会や外部研修へ参加した際等には、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り質の向上とケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学時や入居時に、ご本人・ご家族より話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合っている。希望があれば入居前にお会いしに出向き、お話を伺うようにしている。情報も確認し、職員全員で把握するようしている。職員も、受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族と話し、家族が求めている事や不安に思っていること、これまでの経緯を受け止め、関係が築けるようしている。ご家族の面会の際には、近況を伝えたり、ご家族からの意見も伺いながら、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスにならず、人生の先輩であるという思いを職員が共有している。支援する側・される側という意識を持たず協働しながら生活が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子や状態を面会時や場合によっては電話でこまめに報告するとともに、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで支援しているという事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活の延長線上であるよう、手紙や電話等で関係が継続出来るよう支援している。友人が訪問される方もいる。家族の協力があり、外食等行きたい場所にも出かける方もいる。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性について申し送り等を使って情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談窓口を設け、利用が終了してからも、その後の支援に応じる姿勢を示している。これまでの生活の継続性が損なわれないように、生活環境や支援内容、注意点等について細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、日々の気付きは申し送りを行っている。思いや意思を日常の言動や表情から汲み取るように心がけている。コミュニケーションを密にし、家族からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが継続出来るように支援している。聞き取りや、前利用の病院や施設から情報を集め、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行っている。職員全員でモニタリング、カンファレンスを行い、状況に応じて見直しをしている。本人、ご家族の思いが反映されるものとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送り等で入居者の変化を確認し、その都度記録している。申し送りノートには、重要事項を全て記載し、職員間で共有しながらケアに当たっている。定期的カンファレンス会議を行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者や家族の要望に向き合い、柔軟に対応している。その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来る等の対応をしている。また、ご家族が宿泊されたり、食事の提供も行っており、ご家族と外泊、外出される方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、各機関と意見交換出来るようしている。運営推進会議を利用し、協力を得たり、町内のお店や美容院を利用するなどして関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけや、希望に応じた医療機関へ受診している。また、医師の往診、24時間受け入れ可能な協力病院（舟入病院）各医療機関関係者の確保（外科、内科、皮膚科、歯科など）により、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、職員が付き添い状態の説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約により、日常の健康面や医療面について対応、相談、助言を行ってもらっている。職員と看護師が情報を共有し対応できる体制を取り、薬や医療面についての情報提供等を行ってもらう等、協働体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への関する情報を医療機関へ提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関の相談員とその時の状況を聞き、話し合いながらスムーズな退院につながるよう、支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、家族、医師、職員等関わるチーム全体で話し合いを行っている。事業所で対応が可能な事、困難な事、不安な事などを連携病院や協力病院と情報交換しながら、最期までその人らしくあるよう支援している。本人や家族の意向を踏まえ、主治医と相談しながら体制を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr、原田Dr、看護師の指示のもと、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に対応できる技術を身につけるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方を指導して頂き、設備の点検も定期的に行っている。防災大会にも参加しており、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きた時の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助の際の言葉掛けは丁寧に、本人の気持ちを考え、さりげないケアを心掛けている。自尊心を傷つけることなく配慮した対応を職員全員で徹底している。プライバシーに関しては勉強会を行い、個人情報外部に漏れることがないように注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々に合わせた説明を行いながら希望や願いを引き出せるような支援を行っている。自己決定しやすい声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日、その時の体調や気持ちを汲み取るよう支援している。基本的な流れはあるが、出来るだけ個別性のあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性、好みに合わせた身だしなみが出来るよう心掛けている。季節感や清潔感にも配慮し支援している。定期的に行う理美容では、カットやカラーなど、希望に合わせて出来るよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関するアンケートを行い、好みや苦手な物を把握するとともに献立に活用している。管理栄養士を中心に栄養バランスを計画、手作りを徹底し、食事が楽しみな物となるよう工夫している。食後の後片付けや準備などもやりがいを持ってされている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と摂取量を把握し、個々に合わせ主食をお粥にしたり、副食を刻んだり、管理栄養士を中心に、献立の栄養バランスにも配慮している。食事以外の水分補給を行い、水分摂取が出来るようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後のうがいと歯磨き、義歯洗浄の口腔の清潔保持は日常的に行っている。利用者によっては、ガーゼやスポンジを使って口腔ケアを行い、肺炎防止にも努めている。食事前には口腔体操を行い、治療が必要であれば歯科受診をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を利用し、排泄パターンを把握し、身体状況に応じて出来るところは見守り、自尊心に配慮してさりげなくカバーが出来るように支援している。また、言動などからも排泄のサインを読み取り、誘導できるよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状況を見直し、家族とも相談しながら、自然排便を促すよう働きかけている。必要であれば、無理のない下剤や浣腸等の検討もしている。散歩や、体操、水分補給で改善を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず、利用者の希望に沿った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックを行い、安全に楽しみな時間となるように健康面での配慮にも気を配っている。不安等を感じさせない見守りや介助を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	自然な生活リズムが整えられるよ う、日中活動の促しを通じて支 援している。ゆっくりと休息や睡 眠が取れるよう配慮し、眠剤を 服用される場合には、睡眠状態 、ご家族等の希望を聞き、主治 医に相談のもと調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	理事長、主治医、看護師による 薬についての勉強会を行い、副 作用、用法、用量について理解 に努めている。職員は、個々の 内服薬を把握できるように一 覧をファイルにて管理している。 服薬時には、確実に手渡しをし 、きちんと服薬されているかの 確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を 最大限に活かして自分らしく暮 らせるように一人ひとりの生活 歴を把握し、経験や知恵を發 揮できる場面を作っている。入 居者様の得意な事を活かしたレ ク。ボランティア活動や散歩、 季節の行事、買い物等で楽し める時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	外出が困難と決めつけず、重 度の方でも外出が出来るよう に介護タクシーを利用する等、 家族の協力も頂きながら希望 に沿った支援を行っている。個 別の外出についても、ご家族 と相談、協力を頂き、実現で きるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	所持金は居室内での紛失や入 居者同士のトラブル防止のため 、原則として事務所の金庫に 入れています。買い物をした い時には、職員と出かけて支 払い等を行っております。そ の中での範囲での買い物、支 払いをしています。		

自己評価	外部評価	項目(C棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞いや年賀状を出すなど、プライバシーに配慮しながら希望に応じて生活の中で電話をしたり、手紙を書く支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節に合った花や飾りを取り入れ、入り易い雰囲気になっている。外の景色も見え、季節感を感じる事も出来る。キッチンを利用者に安全に使用できるものとなっており、トイレは車椅子でも出入りが出来るようになっている。照明も落ち着いた色のある色にし、空調にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、フロアで他の利用者と自由に過ごせる空間を設け、フロアではソファや椅子を置き、くつろいで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いて過ごせるように新しい物をそろえるのではなく、今まで使われていた馴染みのある物を持ち込んで頂くように説明をしている。心地よく過ごせる空間づくりを行っている。これまでの生活が、環境が変わっても継続出来るよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺や階段に滑り止めを設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置にも配慮している。状態が変わり混乱が生じた時には、話し合いを行い、不安を取り除くようしている。		

V アウトカム項目(A棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(B棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(C棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム桐壺の家

作成日 令和元年5月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		新人のスタッフが多く、業務は出来ているが、介護のレベルアップまでは至っていない。	入居様の気持ち等に寄り添ったケアを行う事を目指す。	施設内研修やキャリアパス等で知識の底上げをする。日々の業務の中で先輩スタッフが伝達をする。	1年以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。